医療法人喬成会　花川病院　広報誌

つながる手と手

～はなかわからのメッセージ～

第３１号

もくじ

●新年度のご挨拶
●就任のご挨拶
●BASYS−新しいバランス訓練機器導入
●生活指導パンフレットの紹介
●第23回石狩リハビリテーション地域連携懇話会
●新入職員紹介
●骨粗鬆症とおくすり

●令和４年５月18日発行　●発行人：菅沼 宏之　●編集長：金子　宏美　●企画・製作：花川病院地域連携相談センター
医療法人喬成会花川病院　〒061−3207　石狩市花川南７条５丁目２番地　代表電話(0133)73−5311
花川病院ホームページ　http://kyouseikai.jp/

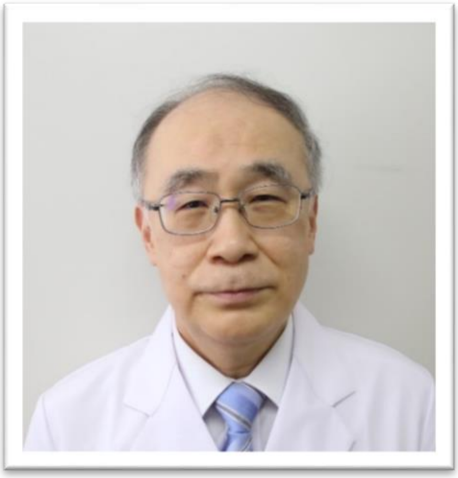
新年度のご挨拶

2000 年 4 月回復期リハビリテーション病棟制度が作られたと同時に、当院も回復期リハビリテーション病棟 60 床を立ち上げ 22 年目を迎えました。その後 2008 年に 120 床となり、2018 年には 150 床に拡大され現在約 130 名のリハビリスタッフが 365 日訓練にあたっています。回復期リハビリテーション医療の対象疾患とならない方も 30 床の地域包括ケア病棟にて、患者様が在宅復帰へ向けて療養しながら訓練を行っています。医療は人間が行う人間相手の営みです。スタッフの質と量、スタッフ間の連携と協力がその充実に最も大切です。今年度は医師では北海道大学病院名誉教授の生駒一憲先生を副理事長として迎え、また若手バリバリの名和泰広先生、お二人のリハビリテーション専門医を新しく迎えることになりました。リハビリテーションスタッフでは理学療法士４名、作業療法士２名、言語聴覚士５名の計 11 名が新しい仲間となり、医療ソーシャルワーカーも２名新人を迎えることができました。看護師も中国からの新人二人を含む５名を迎え、皆意欲に燃えています。

もちろん以前からいる「旧人たち」も医療の充実に向け熱意を持って取り組んでいます。今後も何らかの困難をもって入院される患者様方が少しでも良い人生を送られるように全員で支援していきますので、今年度も何卒宜しくお願いいたします。

花川病院院長　菅沼　宏之

就任のご挨拶



令和４年４月１日に医療法人喬成会副理事長に就任いたしました。医療法人喬成会には回復期リハビリテーション病棟や介護施設等、リハビリテーション関連施設が多数あります。これらが横のつながりを持って適切に活動を継続することが地域への貢献になると考えております。私は３月まで北海道大学病院リハビリテーション科におりましたが、その経験も活かし、微力ながら皆様の健康増進のお役に立ちたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

喬成会副理事長　生駒　一憲

4月から花川病院へ入職しました医師の名和と申します。札幌医科大学出身で、出身大学のリハビリテーション科にて研修を受けました。ここ数年はリハビリテーション関連の仕事から離れていましたが、今回花川病院に勤務される先生との昔のご縁もあり、入職させていただく運びとなりました。

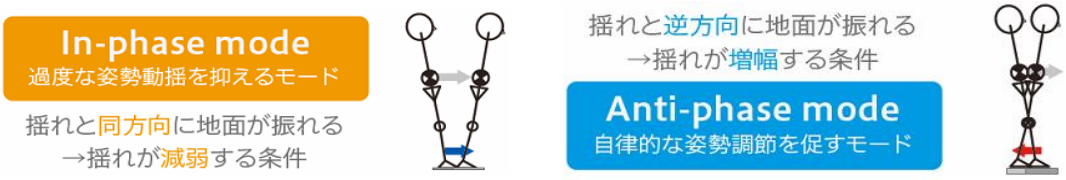
リハビリテーション科においては、まずはやはり病気の後遺症を改善するためにどのようにしたら良いかということを考えますが、それに加え、病気や障害を抱えても豊かな人生を歩む方法はないかという視点も大切とされています。その意味では、手術や薬で病気を治す一般的な医療のイメージとは少し異なる部分があり、同じ病気や障害を抱えていても目指すゴールは個々人によって異なります。私たちはできる限りその意向にお応えできるよう、多職種で協力しながらサポートをしています。

多種多様な人生観に触れる中、私自身の独善的な考え方に気づかされることも多く、己の未熟さ、至らなさというものを痛感させられる毎日ですが、私自身、医師として少しずつ成長していくことができればと考えています。微力ながら地域の皆様のお役に立てれば幸いです。何卒よろしくお願いいたします。

医師　名和　泰広

BASYS-新しいバランス訓練機器が導入されました

今年当院には定量的にバランスを測定し訓練で活用できるBASYS（ベイシス）が導入されました。
当院に入院される半数以上の方は骨折で、その他の方も脳卒中に由来するバランス能力の低下などが生活する上で問題となりやすいです。
バランスの要素は多岐にわたりますが、BASYSは簡単に重心動揺を計測してその結果をリハビリに生かすことが可能です。
人間は立っている時には止まっているわけではなく、細かく動いて微調整をしています。皆さんはバランスの練習というと大きく動いたりすることを想像されるかと思いますが、BASYSは立っている時の微妙な動きの15%程度の絶妙な増減を機械がリアルタイムで加えてくれます。
つまり、揺れが大きくて立つのが大変な方は、機械の調整によって揺れが小さくなり立つことを助けてくれて、揺れが小さすぎて動きにくい方は機械が少し揺れを大きくして、動きやすい方向へ神経調整をしてくれると考えられています。



リハビリテーション部は、皆さんの期待により応えるために新しい機器を適切に活用していきます！！

（リハビリテーション部）

生活指導パンフレットの紹介

◆生活指導パンフレットとは？

ケガや病気をされて当院へ入院された方や、外来・訪問リハビリを受けられている方の中には、日常生活の中で動作に制限が生じる場合があります。今回は、その一例として人工股関節術後のパンフレットを紹介します。

人工股関節の手術を受けられた場合、股関節を深く曲げる（または伸ばす）、足を捻るなどの動作をすると脱臼をする危険があります。手術を受ける際に説明はありますが、実際に生活をしている中でどんなところに注意をしなければならないか、イメージがしにくいことが多いです。

このため、当院ではスタッフが分かりやすいように写真付きで手作りしたものをお渡しし、事故が無いように取り組んでいます。家族の方が見ても分かりやすくなっていますので、退院された後にも活用しやすくなっています。

作業療法士による　生活動作の紹介

股関節人工関節術後偏　①

右人工股関節術後　の　お風呂の入り方

注意点　右股関節が深く曲がる、捻りすぎると脱臼する可能性があります。

浴槽縁に腰掛けます。

足を伸ばしたまま、浴槽をまたぎます。

もう片方の足も伸ばしたまま、またぎます。

浴槽に座る時はなるべく足を伸ばしましょう。

右足が深く曲がらないよう、なるべく伸ばして湯船につかります。

状態に合わせて活用できるように、種類をそろえています！
そのうちの 1 ページになります。

ご質問がありましたら、
作業療法士（OT）に
お気軽にお声かけください。

医療法人 喬成会
リハビリテーション
花川病院
HANAKAWA HOSPITAL

作業療法科

（作業療法士　かねこ）

第２３回石狩リハビリテーション地域連携懇話会

３月１０日第２３回石狩リハビリテーション地域連携懇話会を開催しました。今回は札幌医科大学の廣田亮介先生に「再生医療について」というテーマで講演いただきました。今まで中枢神経は一度障害されると二度と再生することはないといわれてきましたが、近年骨髄幹細胞を採取・培養・増殖させて投与する再生医療が可能となってきました。

講演の中では、様々な症例を動画で紹介してくださり、四肢麻痺で動くことが困難だった少年が、装具を付けて歩行可能となり、水泳でパラリンピックを目指している例などをとてもわかりやすく説明いただきました。その中で興味深かったのは、投与してからいつ頃効果が出てくるかは個人差が大きく、すぐに効果が出る人もいれば、かなり時間が経過してから効果が出ることもあり、早期に効果が表れて回復が見られてきたからゴールも高くなるわけではなく、また中枢から末梢へ徐々に動くようになっていくという例や、突然末梢が動くような症例もあるとのことでした。石狩リハビリテーション地域連携懇話会は、一昨年よりコロナの影響で開催ができずにおりましたが、今回初めての試みとしてオンラインでの開催をいたしました。コロナ禍で普段はなかなか交流が難しい遠方の先生方、他職種の皆様方に多数参加いただき意見交換などができ大変貴重な時間となりました。

次回は５月２６日、当法人副理事長で北海道大学病院名誉教授　生駒一憲先生に「高次脳機能障がい者の社会復帰」と題し講演開催を予定しております。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

（保健師　いけだ）

新入職員紹介

はじめまして。昨年１２月から医事課事務として勤務しております三森あづ（みつもりあづ）と申します。３月に医療事務の専門学校を卒業して初めての勤務となります。覚えることが沢山あり大変ですが、色々教えてもらいながら毎日頑張っていきます。学生時代にしていたアルバイトでの接客の経験を活かして、受付の仕事を精一杯頑張ります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

（医事課　みつもり）

骨粗鬆症とおくすり

皆さんは骨粗鬆症に対してどんなイメージをお持ちですか？実は７０歳以上の女性の２人に１人が骨粗鬆症であると言われておりとても身近な病気の一つです。骨は、お肌と同じように常に新陳代謝を繰り返しています。健康な骨では『骨吸収』という古い骨を壊す作業と『骨形成』という新しい骨を作る作業のバランスが取れていますが、加齢や閉経、運動不足などによりこのバランスが崩れ、骨密度が低下し骨折しやすい状態になる病気を骨粗鬆症と呼びます。骨粗鬆症治療薬は大きく３種類に分類されます。それぞれの作用について簡単に紹介いたします。

① 骨への足りない栄養素を補う薬

カルシウム製剤（アスパラ CA など）、活性型ビタミン D3 製剤（アルファロールなど）

食事で足りないカルシウムを補給する「カルシウム製剤」や、腸からカルシウムが吸収されるのを助ける「活性型ビタミンＤ３製剤」があります。どちらも飲み薬で、副作用は比較的少ないのが特徴です。

②骨形成促進剤（骨が作られるのを促す製剤）

副甲状腺ホルモン製剤（テリボン皮下注、フォルテオ皮下注）

副甲状腺ホルモンを断続的に投与すると、骨芽細胞（骨を新しく作る細胞）の機能が活性化し、骨形成が促進されます。重度の骨粗鬆症や、すでに骨折を起こしている方に対しても、テリパラチド製剤は非常に強い効果を示します。但し副甲状腺ホルモン製剤は、自宅で自己注射を行うか、病院に通って注射をしてもらう必要があります。

③骨吸収抑制剤（骨が壊されるのを抑える製剤）

ビスホスホネート製剤（フォサマックなど）、デノスマブ製剤（プラリア皮下注）

ビスホスホネート製剤は骨吸収を抑えることで骨からカルシウムが引き出されるのを防ぎ、骨量を増加させ、骨折を予防するお薬です。錠剤やゼリー、注射など様々な剤形があります。また用法の種類は、「1 日 1 回製剤」「週 1 回製剤」「月 1 回製剤」「年 1 回製剤」と様々です。

デノスマブ製剤は、半年に 1 回の使用で効果が継続する新しい注射薬です。骨密度を上げる効果が高く、比較的重症の方に使われます。

これらの薬の中から、患者さんの「骨折の危険性」「年齢」「ライフスタイル」などに合わせて治療薬を選択します。また「背骨に効果が高い薬」や「太ももの付け根の骨に効果が高い薬」など、骨折した部位によっても適した薬が異なります。骨粗鬆症のお薬は、正しい用法で継続して使えば、骨密度を高めて骨折の危険性を減らす効果があります。何かわからないことや気になることがある場合は、お気軽に薬剤師にお尋ねくださいね。

（薬局　はせがわ）

編集後記

穏やかな春を迎え、新年度のスタートとなりました。久しぶりに制限のないゴールデンウィークとなりましたがお花見や行楽に訪れた方々も多かったのではないでしょうか。さて、今年度も感染対策を徹底しながら地域の皆様方にご安心して利用いただけます病院を目指して、院内外の行事や地域活動などを開始拡大していく予定でおります。今年度も当院の活動へのご理解とご協力を何卒宜しくお願いいたします。

（MSW　かねこ）